

God With Us

Part 5: Soul Song

Job - Psalms

Message 3 – God Speaks

Job 38-42

April 2, 2017

神は我らと共に
パート5: 魂の詩
ヨブ - 詩篇

第3メッセージ-ヨブの受難: なぜ?

ヨブ記38-42章

はじめに

ヨブの苦難について、3人の友人は間違っただけの理由ばかりを提供した。ヨブ自信も納得のいく理由を強く求める余り、神の英知と正義に疑問を抱き始める。一方、若いエリフは、3人の友人を叱責し、完全な知恵と義によって成される神の御業には、決して失敗がないことを示す。最終的に神が、恐ろしい嵐の中からヨブに聴こえる様にお話しになられた。結局、神はヨブの質問にお答えにはならなかったが、ヨブの心の中の疑いをお試しになった。「ヨブの試練に対する答えは、3人の友人やエリフが語ったような神についての説明づけではない、むしろ神の啓示である。」(ウォレン・ウィルビー)。神は、試練を説明づけるための公式はお与えにならず、試練の只中に、信頼すべき神であるご自身をお示しになった。ヨブに創造の御業に現わされた神の英知とみ力に関する77の修辭的な質問をされた。その質問の目的は、神がヨブの人生でお許しになられることに対する疑問や説明を求める立場にないということをヨブに気付かせるためであった。ウォレン・ウィルビーの3つの説明がとても解りやすい: わたしの天地創造を説明づけることが出来るか? (38:1-38) わたしの天

地創造を監督することが出来るか? (38:39-39:30) わたしの天地創造を征服することが出来るか? (40:6-41:34)。

わたしの天地創造を説明出来るか?

38:1-38

この時、主はつむじ風の中からヨブに答えられた、「無知の言葉をもって、神の計りごとを暗くするこの者はだれか。あなたは腰に帯して、男らしくせよ。わたしはあなたに尋ねる、わたしに答えよ。(ヨブ38:1-3)

先ず、神の知恵と力を行行使して全宇宙を創造された時、ヨブはどこにいたかとお尋ねになった。天地創造において、わたしに「助言」する必要がなかったのであれば、なにゆえ今、わたしに「助言」するのかというのがその質問の本意であった。

わたしが地の基をすえた時、どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え。あなたがもし知っているなら、だれがその度量を定めたか。だれが測りなわを地の上に張ったか。その土台は何の上に置かれたか。その隅の石はだれがすえたか。かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった。(ヨブ38:4-7)

神の天地創造の様々な側面が強調されている: 海、雲、日の出、海の深さ、星、星座、雪、雹、雷、雷雨、等々。創造を極められたお方が、天地創造の法則を知っているかとヨブに尋ねられた。

あなたは知っているだろう、あなたはかの時すでに生れており、またあなたの日数も多いのだから。(ヨブ38:21)!

あなたは天の法則を知っているか、そのおきてを地に施すことができるか。(ヨブ38:33)?

わたしは、天地創造の過程で、完璧な知恵とすべてを創造する技術を行使したと主張された。その事実から、確かに私たちの人生で起こることを管理して下さる中で、同じ知恵と技術が働いているということを信頼することが可能となる。

建築者を雇うとき、まず、作業の見本を見せてもらおうでしょう。それによって、どんな仕事を提供することが可能であるかを見極められる。自分のプロジェクトに携わる建築家を信頼することを可能とする参照点を得られる。同じように、神ご自身の御業の見本をヨブにお見せになることによって、ヨブを巻き込んでいる事柄において、神への信頼を強めるための参照点をお与えになったのである。あなたは、他の分野(天地創造、周囲の人々の人生、聖書に登場する人物)において、あなたに関係する事柄の内に、神の御業を見出し、あなた自身の神への信仰(信頼)を強化する参照点を見出すことが出来ますか? 私たちにお見せになるために、常に神が表示続けて下さっている御業の見本について考えたことがありますか?

わたしの天地創造の業を監督することが出来るか?

38:39-39:30

次に主は、絶え間ない保護と備えを必要とする動物のリストをヨブに示される。疑問は:ヨブよ、このような壮大で多様な動物界の継続的な必要を監督することが出来るか? 下記は、毎日あらゆる瞬間を監督する必要がある、広大な家族のごく一部分を記す神の語りの要約である:

あなたはししのために食物を狩り、子じしの食欲を満たすことができるか。からすの子が神に向かって呼ばわり、食物がなくて、さまようとき、からすにえさを与える者はだ

れか。あなたは岩間のやぎが子を産むときを知っているか。あなたは雌じかが子を産むのを見たことがあるか。だれが野ろばを放って、自由にしたか。だれが野ろばのつなぎを解いたか。野牛は快くあなたに仕え、あなたの飼葉おけのかたわらにとどまるだろうか。だちょうは威勢よくその翼をふるう。しかしこれにはきれいな羽と羽毛があるか。あなたは馬にその力を与えることができるか。力をもってその首を装うことができるか。たかが舞いあがり、その翼をのべて南に向かうのは、あなたの知恵によるのか、わしがかげのぼり、その巢を高い所につくるのは、あなたの命令によるのか。

何か(家族、ビジネス、家)を創造することと、創造したものを維持し発展させることは全く別の業である。あなたが日々監督し保護しているものについて考えてみましょう。あなたが、保護することを止め、監督することを止めたらどうなるでしょうか? 神がどのように宇宙全体を保持してこられているかについて、あなたは驚嘆したことがありますか? どのようにして神が一刻一刻、あらゆるものごとを支えて来ておられるのでしょうか? よく、自分で築いた裏庭の宇宙の縮小を座って眺めることがある。毎日の労働が要される! 鷹たちは急高し続ける。木々は生え続ける。松リスは庭に穴を掘り続ける。雨が降り、日が昇り、長く寒い冬の後、春に命をもたらす。カナダディアン・ギースが戻って来る。つい最近、野生の七面鳥の大きな群れが庭の向こう側にまるで兵隊の行進の様に横切った! 神がそれら全てを管理されている。ということは、私の人生における出来事も管理されているということである。私が必要とするものも必要とする時も、神はご存知であるということの意味すると考えられる。それはまさにイエス様が山頂の説教の中で従者たちに不安を放棄するようにと教えられた説教のポイントである:「野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しか

し、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあるろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。」（マタイ 6 : 28 - 30）

わたしの天地創造を征服することができるか？

40 : 6 - 41 : 34

神ご自身の語りの最後の部分で、二つの被造物に焦点を当てておられる：ベヘモスとリバイアサン。聖書学者たちは一般的に、それらの動物がカバとワニであることに合意している。神はヨブに、その二種類の動物のどちらかでも飼い慣らしてみなさいと呼びかけられる。

ヨブにカバを捕え鼻に輪をひっかけ、飼い慣らしたペットの様に扱うことができるでしょうか？

河馬を見よ、これはあなたと同様にわたしが造ったもので、牛のように草を食う。見よ、その力は腰にあり、その勢いは腹の筋にある。これはその尾を香柏のように動かし、そのももの筋は互にからみ合う。その骨は青銅の管のようで、その肋骨は鉄の棒のようだ。これは神のわざの第一のものであって、これを造った者がこれにつるぎを授けた。だれが、かぎでこれを捕えることができるか。だれが、わなでその鼻を貫くことができるか。

ヨブにワニを吊り上げ、家に持ち帰り、鳥かごの鳥のように扱うことができるか？

あなたはつり針でわにをつり出すことができるか。糸でその舌を押えることができるか。あなたは葦のなわをその鼻に

通すことができるか。つり針でそのあごを突き通すことができるか。これはしきりに、あなたに願い求めるであろうか。柔らかな言葉をあなたに語るであろうか。これはあなたと契約を結ぶであろうか。あなたはこれを取って、ながくあなたのしもべとすることができるであろうか。あなたは鳥と戯れるようにこれと戯れ、またあなたのおとめたちのために、これをつないでおくことができるであろうか。

どちらにせよ、ヨブに、それらの巨大な獣を支配下に置くことは不可能である。ならば、ヨブは、それらの偉大な獣をお造りになられた全能の神と口論することがどうして出来るでしょうか？

あなたの思い通りの神を求めて、神と奮闘するなど、どうして出来ようか？神様がお造りになった被造物を見てみましょう。あなたにとって天地創造のどの側面を制御するに無理があると思われますか？（私は、エベレスト山と奮闘しようなどと望まない。鮫と泳ぎたいとも望まない。また、森の中でクマに遭遇したいとも望まない。以前、友人のために、プール掃除をしようとした際、そこで泳いでいたアヒルの家族に手を出した私に怒り、攻撃してきたアヒルに恐れを感じた経験がある！）天地創造のどの側面に恐れを抱かれますか？神の被造物に対するあなたの恐れを、そして、その全てをお造りになった神ご自身に置き換えることができますか？くまやサメやアヒルと奮闘することが出来ないあなたが「神と奮闘する」ことの愚かさを理解出来るでしょうか？もし、クマごときに、あなたが恐怖を覚えることが可能であるなら、あなたの人生において、神とその御業に対して健全な恐れと畏敬の念を覚えることは出来ないでしょうか？

ヨブ、議論を悔い改める：42 : 1 - 6

ヨブは神に向かって、どうして「不当に」不幸を引き起こされたかの説明を要求した。神の視点から、そのことは重要

な問題ではなかった。結局、神は、ヨブの絶大で長期にわたる苦しみ背後の理由をお与えにはならなかった。ただ天地創造の秩序を証明されることによって、神ご自身の特性を啓示された。ヨブを沈黙させるに十分であった。

「わたしは知ります、あなたはすべての事をなすことができ、またいかなるおぼしめしでも、あなたにできないことはないことを。『無知をもって神の計りごとをおおこの者はだれか』。それゆえ、わたしはみずから悟らない事を言い、みずから知らない、測り難い事を述べました。『聞け、わたしは語ろう、わたしはあなたに尋ねる、わたしに答えよ』。わたしはあなたの事を耳で聞いていましたが、今はわたしの目であなたを拝見いたします。それでわたしはみずから恨み、ちり灰の中で悔います」。主はこれらの言葉をヨブに語られて後、テマンびとエリパズに言われた、「わたしの怒りはあなたとあなたのふたりの友に向かって燃える。あなたがたが、わたしのしもべヨブのように正しい事をわたしについて述べなかつたからである。(ヨブ42:1-7)

ヨブは、神についてごく限られた見解しかなかったことに気が付いた：わたしはあなたの事を耳で聞いていました。しかし、苦難と個人の体験と神からの質問を通さなければ得ることの出来ない、神のご性質の洞察を得た。そして、今は、わたしの目であなたを拝見いたします。

最終的に、神はヨブの疑問にお答えにはならなかったが、神に疑問を抱くことについてお応えになった。神の応えは次の通りである：あなたがわたしを神と心から信じるなら、なにゆえ、わたしに向かって「なぜ」と聞く？

言い換えると、神を疑うということは、神のご性質（神の英知、御業、み力、義、素晴らしさ、等々）に疑問を抱くことになる。私たちが神のご性質に疑問を抱くとき、無意識の

うちに神そのもののご臨在に疑問を抱いているということになる。

エピローグ：ヨブの和解：42：7-17

全ての苦難が前向きな結末を閉じるわけではないが、ヨブの場合はそうであった。先ず、ヨブは3人の友人のための仲介者にされたという点で神によって栄誉を受けた。彼らは、罪のためのいけにえを捧げなければならなかった、そして、ヨブが彼らの「仲介者」であった。いけにえは、ヨブの祈のお陰で神に受け入れられた。次に、ヨブの家族と富は復元された。実際、苦難の前に所有していた財産の二倍の祝福を受けた。最初に授かった子供たちは亡くしてしまったが、更に美しい子供たちを授かり、家族を楽しんだ。最後に、ヨブは長寿の祝福を受け、幸せに暮らした。

この後、ヨブは百四十年生きながらえて、その子とその孫と四代までを見た。(ヨブ42:16)

物語からは、ヨブの苦難の背景にある理由がヨブに知らされたことを示す箇所はない。おそらく、ヨブの生涯を通して、謎であったと考えられる。

ヨブの物語から得られる鍵となる教訓

1. 神秘：人生は謎であり、神の方法は更に謎である。100パーセント予想可能であること等存在しない。私たちがこの世に生きる間は試練に直面するとイエス様は約束された(ヨハネ16:33)。全てのことをきちんと説明する公式や方程式は放棄し、その代わりに、神の謎の信仰によって生きる方法を学ぶ必要がある。

2. 信仰：痛みと苦しみの中を信仰をもって歩むとき、新しい意味が生まれる。もし、私たちがイエス・キリストに信仰をおき、救い主として、羊飼いと受け入れるなら、イエス様が痛みや喪失や恐れや変化の迷路の様な人生を導いて下さる。私たちは一人で歩くのではない。神の御霊が、御心に従って、私たちの内から苦しみに耐える力を与えて下さる。私たちが神の御手から奪うことは誰にも出来ない（ヨハネ10：28, 29）。私たちに神の方法が理解出来なくても、試練の只中、神のご性質に信頼することが出来る。神の方法が理解出来なくても神の御心を信じるこそ、信仰の本質である。

3. 哀れみ：ヨブの友人とは違って、私たちは、同情し、苦難の中にある者の痛みの中に共に寄り添い、悲しむことが可能である。「泣くものと共に泣きなさい。」（ローマ人12：15）簡単な答えを与える必要は無い。その代わりに、あなたの友人（とあなた）に神ご自身を明らかにして下さっている事柄の謎の内に寄り添いましょう。そうすることによって慰めを提供することが出来る（第二コリント1：3-4）。

4. 成熟：最終的に、苦しみは、私たちやその周囲の人たちを洗練させ、成熟させるために神が用いられる道具の一つである。苦しみを通して、私たちが神の恵みに安らぎを置き、神の愛を信じる選択をするならば、神の無限の愛を知り、体験することが出来る。神に失敗はない。神はすべての御業において、主権者であられ、全知全能であられる。

付録# 1： 苦しまれる神

この世に苦しみをお許しになる神の義について、どのような疑問があるにせよ、次のことだけは確かである：神は、あらゆる苦難に介入して下さっている。旧約聖書全体を通して、人間との関係を求めてこられた神は、また、その人間によっ

て拒絶され、捨てられ、裏切られた。最終的に神は、苦しみを真正面から受け入れられ、イエスという人として、私たちの壊れた世界に入って下さった。ヨブには、神が三位一体の神であることを予見することは出来なかった。ヨブは、御子なる神が人間の一人となり、私たちの壊れた世界に入って来て下さり、私たちの苦しみを体験して下さい、最終的には、はずかしめられ十字架につけられるという究極の苦しみを体験して下さいということを知らなかった。なぜ苦しみをお許しになるのかという質問の答えの一つ：イエス様は、私たちに罪の赦しをもたらし、再び聖い、全能の神と和解させるために自ら苦難を受けて下さった。罪の奴隷となり、死へと向かっていた私たちを解放して下さいためである。キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。（第一ペテロ3：18）だから、私たちが苦しみにあるとき、十字架を見上げ次の様に言えばよいのです：神も苦しまれたので、私の苦しみもご存知である。

付録# 2： 新約聖書が教えるヨブの切望

ヨブは、アブラハムより、はるかに先の時代に生きた（創世記12章）。当時、神の救いのご計画には、まだ明らかにされていない多くの側面があった。ヨブの数々の質問と切望が最終的にイエス・キリストという人とそのお方の働きによって答えられた多くの御業に目を向けることが有益である。ヨブ記の聖書箇所と新約聖書箇所を比較してみましょう：

我々の間には、我々二人の上に手を置くべき仲裁者がない。（ヨブ記9：33）

神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。彼は、すべての人の贖いとしてご自身を捧げられたが、それは、定められた時に成された証に他ならない。（第一テモテ 2 : 5, 6）

人がもし死ねば、また生きるでしょうか。わたしはわが服役の諸日の間、わが解放の来るまで待つでしょう。
（ヨブ記 14 : 14）

イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。
（ヨハネ 11 : 25）

見よ、今でもわたしの証人は天にある。わたしのために保証してくれる者は高い所にある。（ヨブ記 16 : 19）

ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである。
（ヘブル人 9 : 24）

わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。（ヨブ記 19 : 25）

キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである。（ヘブル人 9 : 28）

どうか、彼を尋ねてどこで会えるかを知り、そのみ座に至ることができるように。（ヨブ記 23 : 3）

わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。（ヨハネ 14 : 4-6）

ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します」。イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっているのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。（ヨハネ 14 : ; 8-9）

ああ、わたしに聞いてくれる者があればよいのだが、（わたしのかきはんがここにある。どうか、全能者がわたしに答えられるように。）ああ、わたしの敵の書いた告訴状があればよいのだが。（ヨブ記 31 : 35）

「だれが、主の心を知っていたか。だれが、主の計画にあずかったか。また、だれが、まず主に与えて、その報いを受けるであろうか」。は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。栄光がとこしえに神にあるように、アァメン。（ローマ人 11 : 34-36）

「見よ、わたしはまことに卑しい者です、なんとあなたに答えましょうか。ただ手を口に当てるのみです。
（ヨブ記 40 : 4）

わたしは、なんとというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべ酔はき

かな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律法に仕えているのである。

(ローマ人7：24，25)

付録#3：キリストに似ているヨブ

旧約聖書には、キリストに似た(前例)が何人も登場する。見落とされがちであるが、ヨブはその内の重要な一人である。下記のゆえ、ヨブはキリストを予示しているといえる。

ヨブは神の目に義であった。

－イエス様には罪がなかった。

ヨブは人々に仕えた

－イエス様は仕えられるためでなく、仕えるために来られた。

ヨブは悪魔に二度誘惑された。

－イエス様は3度、悪魔に誘惑された。

ヨブは、理由なく罪人と告発された。－イエス様は理由なく罪人と告発された。

ヨブは全てを失った。－イエス様は天の御国でのご栄光から離れることによって全てを犠牲にしてくださった。

ヨブはできものに覆われ殆ど見分けがつかなかった。－イエス様の容姿は人に見えない程傷で覆われていた。

ヨブは非常に苦しんだ。－イエス様は世の罪のために苦しまれた。

ヨブの最も近い伴侶(妻)もヨブに諦める様促した。－イエス様の仲間(ペテロ)はイエス様に十字架を避けるよう促した。

ヨブは嘲笑され軽蔑された。－イエスは嘲笑され軽蔑された。

ヨブは家族と友人に拒絶された。－イエス様は全ての人に拒絶された。

ヨブは町はずれの灰の丘の上に座り込んだ。－イエス様は町はずれの丘の上で苦しまれた。

ヨブは友人のための仲介者と宣言された。－イエス様は全人類のための仲介者と宣言された。

ヨブは富を含めあらゆる祝福を取り戻した。－イエス様は天の御国の栄光と富を取り戻された。

ヨブには更に多くの子供たちが与えられた。－イエス様には多くの霊的子供たちが与えられ続けている。

注意：ヨブとイエス様との大きな違いの一つは、ヨブは苦難について不平を言い、自分を正当化しようとしたことである。一方イエス様は、告発されても無言を保たれ、ただ苦難の道を選択された(第一ペテロ2：21－24)。イエス様は、ご自分の苦しみの只中で天の御父に委ね続けられた。弟子のペテロは全ローマ帝国のイエス・キリストの従者にあてて、永遠の御国では溢れる喜びを分かち合うことを知り、よく苦しむように励ました(第一ペテロ4：12，13)。